

カガヤキ

暫定的補足表題「ウオランタス」
ラテン語でボランティアの意

No.70(2023.4.15 刊行)、広報委員会編集
茨城県立図書館発行
禁複写転載©広報委員会

令和4年度各グループ年次報告

各ボランティア名のあいうえお順。

外国語資料整理 G

河村日佐男

1) 今年度目標

図書館のボランティア活動再開に伴い、新型コロナウイルスの感染予防策を遵守し、前期末の委員長の退任と新たな新規メンバー3名の活動参加を受け、未整理資料の整理作業を続ける。

2) 活動内容

主に寄贈図書 of 外国語書籍・印刷物の書誌事項及び内容概要の和訳に対し、①既定の書式に記入し、または、②デジタルファイル (Microsoft WORD) の様式に入力し、資料の収蔵可否の検討及び図書データベース (図書カードに替わり) の作成に資する。

地下書庫の外国語資料書棚から資料を取り出し、3階ボランティア室で整理作業の後、地下書庫に戻す。また、各ボランティアの作業時間の都合により、資料の自宅持ち出し作業も行っている。

今年度から持ち出し禁止が解かれたドイツ語と英語の書籍がある。

3) 成果

本年度の整理点数は、以下のとおり、少数に留まった。その原因は、一昨年度以来、県内コロナ感染者数が増加した社会状況の中で、メンバーが外出を控えたためと考えられる。

- ・英語 15 冊
 - ・ドイツ語 1 冊
- 合計 16 冊

4) 来年度目標

来年度はメンバー3名で活動予定である。また、転居したメンバーの近傍図書館と県図書館の定期便を利用した資料の往復が必要となる。

5) その他

整理済みで収蔵決定となった資料の開架利用が望ましい。外国語による利用者の高度な見聞を広めるなど県立図書館の役割上必要なことと考えられる。

関連して2階開架書架のスペースが圧倒的に不足しており、根本的な改善方策が必要である。

郷土資料整理 G

辻 雅子

1) 今年度目標

2 ヶ月に一度定例の打合せ会を実施し、活動したい。

2) 活動内容

県立図書館所蔵の古文書を選択し解説をする。解説は各自ページ数を分担し、自宅で解説作業を実施する。それを定例の打合せ会の際に、図書館へ持ち寄り、何度も読み合わせて、間違いがないかをチェックする。最終的なチェック後、冊子化を行い、県立図書館と国会図書館へ納付する。

今期は、2 名入会し、6 名で活動を行った。

3) 成果

- ・『地理書 常陸久慈郡』の読み合わせ、最終チェックが終了し、冊子化中である。
- ・『水戸逗留日記』の読み合わせも進んでいる。

4) 来年度目標

従来どおりのペースで活動したい。

広報 G

桜井 淳

1) 今年度目標

広報 G の作業内容は、国内外どこでも、PC と Wi-Fi さえあれば、E-mail や

WORD などの利用により、原稿依頼や編集作業ができるため、コロナ禍の社会状況においても、活動制限が少なく、通常どおりの作業が継続できるため、通信紙の編集は、最低 2 回、できれば 4 回にしたい。

2) 活動内容

的確な取材や分析やまとめが可能なように、これまでどおり、県立図書館の広報 G 担当の職員とは、E-mail のやり取りを実施した。

3) 成果

今年度に発行した通信紙は、No.62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69 である。高い目標以上の成果を上げることができた。

4) 来年度目標

今年度同様の成果を上げるため、同様の手法と目標を掲げ、できるだけ多くの通信紙の編集に努めたい。

三の丸書庫 G

黒澤英宣

1) 今年度目標

- ・団体貸出の返却本を適正に配架する。
- ・書庫内に保管している一定の年数を経過した書籍を古本として処理し、リサイクル書籍として県立図書館内にて利用希望者に提供する。

・返却された書籍の中で、修理が必要な本の修理を行う。

・書庫内外の環境を改善する。

2) 作業内容（毎月 2-3 回）

配架処理担当ボランティア(3-6名)

- ・団体貸出の返却本の配架処理作業及び書

架の整理作業を行う。

・一定年数を経過した古本をリサイクル本として登録し、県立図書館内で利用希望者に提供するため、リサイクル印の押印作業を行う。

返却本の修理担当ボランティア(2-4名)

・修理が必要な返却書籍の修理作業(汚れ、破れ、ほつれの修復、ブックカバーの装備)を行う。

3) 成果

参加ボランティア全員が積極的かつ協調性が優れており、毎回目的を達成。

4) 来年度目標

書庫における配架処理担当の新規作業の設定。

視聴覚資料 G

県立図書館普及課 石井敬之

(昨年度とまったく同じ内容)

1) 今年度目標

コロナ禍においても、積極的な活動を実施したい。

2) 活動内容

視聴覚資料(CD,DVD)の傷や、再生不良を研磨することにより、通常再生できるように復元した。利用者から不具合が出ていると報告のあった視聴覚資料について、不具合の確認を行い、どの部分がどの程度(時間)不具合が出ているか確認した。

3) 成果

当初、ボランティア登録者がおらず、募集をかけたところ、3名の新規ボランティ

ア登録があり、不具合資料があった際に、視聴覚資料を修復した。視聴覚資料の不具合は、定期的に発生するものではなく、不定期で発見されるため、不具合資料が少ない場合、ボランティア活動も減少する傾向がある。

4) 来年度目標

コロナ禍において、社会状況を見定め、積極的に対応したい。

児童サービス G

大谷耕治

1) 今年度目標

コロナに感染しない、させない事を大前提に子供たちが本に親しめる環境を応援する。

2) 作業内容及び成果

・定例のおはなし会実施。
・読書フェスティバル(5月と11月)でのおはなし会の実施。
・戦争を語り継ぐ朗読会。

1階ギャラリー「原爆パネル展」会場にて4回実施。

・児童サービスでの研修会。

小さな絵本を作ってそれぞれ自分の作品を読み聞かせた(8名参加)。

・外国語おはなし会への参加と定例おはなし会内で外国語絵本の読み聞かせ実施。

・コロナ対策として、時間制限、おはなし室入り口での検温、手指の消毒を実施。

3) 来年度目標

コロナ対応が緩和される中、まずコロナ以前の運営に戻してゆくこと、さらに、コロナの教訓を生かした一歩を踏み出して行きたい。

資料配架 G

吉田 善克

1) 今年度目標

コロナ禍においても、積極的な活動を実施したい。

2) 活動内容

各自による、感染状況、開館状況に応じた活動となった。

3) 成果

コロナウイルスの感染拡大により、ボランティアの自粛が多く、活動は、実質休止状態であった。再開は、各自の判断を尊重し、県立図書館の開館に合わせて活動する方針である。

4) 来年度目標

コロナ禍において、社会状況を見定め、積極的に対応したい。

対面朗読サービス G

高村由美子

1) 今年度目標

対面朗読は、現在、視覚的に不自由な方のために、「その方に代わって本を読む」というリーディングサービスを行っています。

・利用者からの要請に応じてリーディングサービスを提供する。

・リーディングサービスの向上を図るために適宜研修を行う。

2) 活動内容

3) 成果

現在活動メンバーは9名、定期的利用者は1名、短期利用者は1名。

・利用者からの要請に応じて 要望のあった書籍などを対面しながらリーディングサービスを行っている(利用者は2名、要請回数は平均して月2回程度、1回の要請で2時間のサービス)。

研修会(定例会も含む)を原則、月1回第3土曜日に行った。朗読サービス向上のために研修していることは、

・初読に慣れる(対面での利用者を意識した読み合わせ)、

・発声練習(音読練習、群読)、

・日本語に対する興味・関心を持つ時間。長期休止後の活動再開に当たって、

・運営の見直し、

・新入会員を受け入れるためのマニュアル作成、

・普及課担当者とメンバー間で、機に応じた情報交換を行った。

4) 今後の課題

・メンバーの個々の意向を考慮しながら研修内容を充実させていきたい。

・メンバーの人数からして、活動に余力があるため、リーディングサービスを必要としている方という点を広くとらえて、利用希望者が増えることを期待している。そのために適切な広報活動が必要と考える。

図書修理 G

近藤淑子

1) 今年度目標

一冊でも多くの「修理を必要とされている」図書をていねいに修理する。

2) 作業内容

毎週金曜日 10-15:00 が作業時間。ボランティア室内で様々な道具と機械を使つての修理活動。

3) 成果

一般的に修理活動の成果として表される修理冊数は、今年度 360 冊。この中には、数十分で修理完了する書籍もあれば、何ヵ月もかかる書籍もある。

4) 来年度目標

毎年同じことであり、「製本された時の状態近くまで戻す事」と「再修理が必要な図書を作らないこと」。修理が必要な書籍を作らないための「図書の扱い方」を広めること。

録音図書制作 G

立川みつよ

1) 今年度目標

録音図書利用者が、聞きやすく、内容の理解できる録音図書の制作。

2) 作業内容

・ DAISY 図書の制作

本の選定、著作権確認、編集など制作打合せ、下読み下調べ、録音、音訳と編集の校正、

全体の DAISY 編集、DAISY 全体編集の校正、CD の作成。

・ 定例会

県立図書館(第 2 火曜日)、

牛久市立図書館(県南登録者 第 1 と第 3 火曜日)、

音訳と編集等の勉強会、校正他の打合せ。

・ 録音等の場所

図書室録音室または自宅。

3) 成果

「旅のつばくろ」沢木耕太郎著

「すいかの匂い」江國香織著

「Day to Day」辻村深月・他著

「昨夜のカレー、明日のパン」木皿泉著

ちくま文学の森 6 「思いがけない話」

ちくま文学の森 12 「動物たちの物語」

4) 来年度目標

・ メンバー全員が全ての作業を担当できるようになること。

・ 図書の内容が一度聞いて理解できる朗読を目指したい。

5) その他

・ 図書館の読書フェスティバル参加と「名作を楽しむ会」での朗読協力予定、

・ 全国音訳ボランティアネットワーク

2023 年総会 7 月(場所：都内または zoom)。

編集後記

通信紙の編集は、今回で 70 回目であり、内容は、各 G の「年次報告」です。

私は、開店休業状態の広報 G を立て直し、オリジナリティが高く、論理構成が良く、文章表現が巧みな通信紙の編集を目指してきました。

私が編集した通信紙は、
2015 年 25, 26, 27, 28(欠番), 29(欠番),
2016 年 30, 31, 32(欠番), 33,
2017 年 34, 35(欠番), 36,
2018 年 37, 38, 39, 40,
2019 年 41, 42, 43, 44, 45, 46(欠番), 47,
48,
2020 年 49, 50,
2021 年 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59,
60,
2022 年 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69,
と今回であり、決番が 5 回あった原因は、私と茨城県立図書館長の考え方の差に起因しており、私が自粛したためでした。2022 年以降は、そのようなことがなく、安心しています。

私が編集した通信紙の特徴は、上記の目標と特徴の他、新たに、「年次報告」の特集号を編集したことです。

ボランティアは、ただ、作業をするだけではなく、次世代の人達(茨城県立図書館員やボランティアなど)のために、足跡、もっと大きく言えば、「作業内容の歴史記録」=「年次報告」を残さなければなりません。私が編集した 2015 年以降の通信紙には、毎年、「年次報告」が入っています。しかし、私は、最初、各 G とともに、1 ペ

ージの文量を依頼していましたが、実際には、良くて半ページ、多くは、四分の一ページであり、それを基に、決められた書式化、文章補足、他 G の内容と長さとのバランスを考慮し、最終的な編集を行いました。ただ、まだまだ、満足できるレベルには、達していません。

いまは、誰でも、良い文章が書ける時代になっており、具体的には、PC で、E-mail や WORD を使い込めば使い込むほど、AI(Artificial Intelligence)機能により、日本語でも英語でも、文章の不自然な表現に対し、あるいは、明らかな間違った表現に対し、警告どころか、修正案まで表示され、自身で考え、修正案をそのまま採用するか否かの判断をすれば良いのです。

その程度ではなく、2022 年 11 月以降、米 open AI 社から Chat GPT という対話型 AI により、設定条件によっては、目的とする作品(音楽や詩や小説など)を生み出すこともでき、私がこれまでうるさく言ってきたオリジナリティや論理構成や文章論のいずれも最高の作品に仕上げられます。

Chat GPT は、無料であり、アカウントを得るには、指定ウインドウで、E-mail アドレスと電話番号のみ入力すれば良く、より優れたバージョンや優先的利用を希望する場合には、有料コースもあり、自身の利用目的により、選択すれば良いのです。Chat GPT を利用すれば、誰でも、作曲家や詩人や小説家になれますから、従来の価値観や社会秩序をひっくり返すくらいインパクトのある AI ソフトツールです。

ボランティア各自の今後の精進に期待します。

桜井 淳